

民主党近畿ブロック研修会・2013.11.11

# 今よりマシな日本社会をどう作れるか 10年後の日本経済と民主党の経済政策

中央大学教授

**塩沢由典**

# 講演の趣旨

---

- 民主党への応援歌
- 危機感と期待
  - 日本の政治・経済・経済学への危機感
  - 民主党への期待、希望
- アベノミクスでは、終わらない。
- 真の経済政策を国民に理解してもらおう。
  - 地方議会議員の役割のひとつ
  - 地域活性化にも経済政策の眼が必要

# 民主党政権(2009-2012)について

- 1993-94細川・羽田(94-95村山)内閣
  - 連立政権のもろさ ■ 96民主党結成98新民主党
- 民主党政権(09-12)
  - 結党の理念 市場主義・福祉至上主義の克服
  - 実質的な連立政権、混成部隊 → 矛盾した政策
- 2012・13年民主党惨敗(衆院・参院)
  - 民主党を支え、再起を担うのは地方議会議員
  - 地方が政策をまとめ、国民に浸透・理解させる。

# 民主党政権の政策

---

- **コンクリートから人へ(選挙公約・鳩山内閣)**
  - 民主党の初心。今も将来も正しい。
- **強い経済・強い財政・強い社会保障(菅)**
  - 基本的には正しい。ただし、その意味は？
- **わたしの今日の話**
  - 「今よりマシな日本社会を作るには」社会保障についての考え方を变える必要がある。
  - 「福祉切捨て論」でも、「福祉至上論」でもない。

# アベノミクスをどう見ているか

- 『今よりマシな日本社会をどう作れるか』
  - SURE、156ページ、7月15日発売、話2月24日
- 全体的感想
  - 思いのほかうまく行っている。
  - 安倍首相は運がいい。(運を掴んだのはえらい。)
- 安倍首相の評価できるところ:
  - 4月19日成長戦略スピーチ
  - 経済界に給料値上げを要請したこと
- 第3の矢(成長戦略)は落第

# アベノミクスの4本の矢

- 第1の矢 大胆な金融政策(異次元)
  - リフレ派(黒い日銀) ■ 伊東光晴『世界』
  - 竹森俊平『通貨「円」の謎』
- 第2の矢 機動的な財政政策
  - 国土強靱化(resilience)、防災・減災、建設族
  - 補正予算10兆円(無駄の象徴)、消費増税
- 第4の矢 2020東京オリンピック
  - Lip Service? vs. 財政再建派

# 成長戦略(1)

## ● 第3の矢 (民間投資を喚起する)成長戦略

- 中長期的にはいちばん重要
- 本物になっているか。
- たとえば、企業の投資減税！？

## ● 投資減税で企業は投資を増やすか。

- 増やさない。>財政負担を増やすだけ。
- 投資はなにによって決まるか。
- リフレ派 ← ケインズ『一般理論』の誤ったところ。

# 成長戦略(2)

- 「世界で勝って、家計が潤う」(5.17スピーチ)
  - 新重商主義。「内需拡大」といえない?
- 民間投資の拡大(安倍内閣)
  - 空気の一変(第1・第2の矢)、TPP
  - ✕国際先端テスト、国家戦略特区、規制緩和
- 批判
  - 内需の中長期的成長が見込めずには、国内投資は増えない。→投資減税に意味はない。
  - 4～5年で失速。「リフレ」は二度は使えない。

# アベノミクスの背景

---

## ●1992年以降の経済停滞

- 90年代 いわゆるケインズ政策(第2の矢)
- 00年代 小泉改革=規制緩和、供給条件の改善
- ともに失敗。

## ●リフレ派(ケインズ派のひとつ)

- Krugman(1998) It's baaack: ...
- 金利0でも景気回復しない。利子率は負にならない。
- 実質利子率がある→インフレを起こせばよい。

# 真の経済成長とは

- 日本経済はデフレ不況ではない。
  - 年マイナス1%の消費者物価低下は価格安定
  - 価格が安定しているのに成長しないのが問題
- 経済成長の定義
  - 一人当りの所得の増大、GDP増大ではない。
  - 経済成長とエコロジーは両立する。
- (税金を使ってでも)必要なところに資金を回す → 需要増大 → 経済成長

# 初期状態 人口1億人の仮想経済

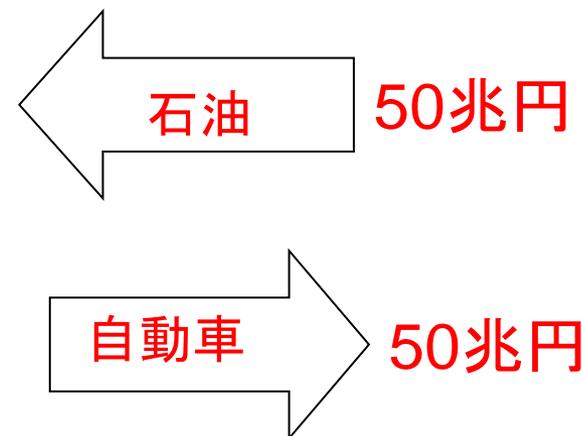
非労働人口 5千万人  
労働可能人口 3千万人  
(失業者を含む)

●有業人口 5千万人  
●所得 1千万円/年人  
●GDP 500兆円

**製造業**

内 自動車産業

●労働人口 1千万人  
●所得 1千万円/年人  
●GIP 100兆円

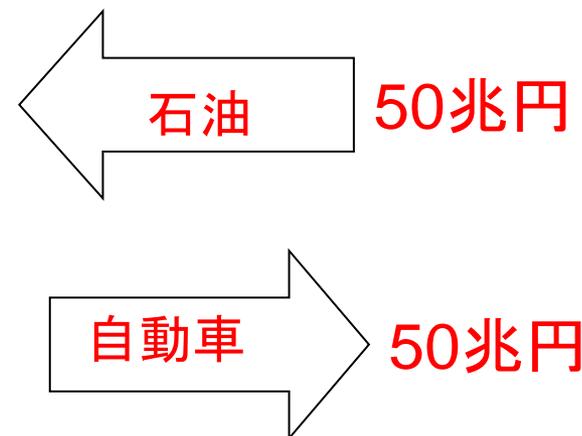


# 拡大後の経済

非労働口等 7千万人

- 新規労働人口 1千万人
  - 移転労働人口 1千万人
  - 所得 1250万円/年人
  - GDP<sub>3</sub> 250兆円
- 広義サービス

- 労働人口 4千万人
  - 所得 1250万円/年人
  - GDP<sub>2</sub> 500兆円
- 製造業
- 労働人口 800万人
  - 所得 1250万円/年人
  - GIP 100兆円
- 内 自動車産業



# 観察される変化

- 雇用 5千万人→6千万人(20%)
- 所得 1000万円→1250万円(25%)
- 生産性 1千万円/人→1.25千万円/人(25%)
- GDP 500兆円→750兆円(50%)
- 注目すべきこと: GDPは雇用増加率、生産性上昇率、所得上昇率以上に増大している。
- もしこれが可能ならば、100兆円の税金を払っても、元は取れる。純所得増150兆円。

# なぜ実現できないか

## ● 需要構成(需要の質)

✖ 一財モデル・ケインズでは問題にならない。

■ 物の経済(農業・製造業・建設業)は25%。

## ● 伸びる需要が伸びない構造がある。

■ 医療・介護・教育・保育など

■ 市場だけでは解決できない(✖ 市場万能主義)。

■ 需要が伸びないのは、非効率のためではない。

## ● 政府の役割を考えなおす。

# 強い社会保障が強い経済を作る(1)

## ●安倍首相「失業なき労働移動」

- 目標は正しい。しかし、成長産業は？
- マッチング機能や多元的働き方では実現不可能
- 社会保障(失業保険、大学での学びなおし、など)
- ICT革命における北欧諸国の強さ

## ●医療費の総額を抑制するな

- 医療費抑制ばかり考えるから、需要が伸びない。
- もっと医療にお金をつぎ込めば、GDPは伸びる。

# 強い社会保障が強い経済を作る(2)

## ●教育・研究

- 百年の計(終身の計)→人を植える。管子・権修編
- 安倍首相: 世界で競争できる大学? 英語教育?
- 個性的で創造的な人間が経済を活性化させる。

## ●介護・保育

- 人に優しい社会として不可欠。
- 介護保険で、介護産業従事者急増
- 保育: 1930年代スウェーデン(ミュルダール夫妻の提案)

# どんな社会福祉レジームを選ぶか

## ● エスピン・アンデルセン

- 福祉レジームの3類型
- アメリカ型・保守主義型・社会民主主義型
- 日本:保守主義的(ドイツ、イタリア)、家族主義的

## ✕ アメリカ型の国家観では不可

## ● 日本のめざすべき方向

- 家族主義型の破綻 どこへ
- 国民負担率: 北欧(SFN:58~59%)、日本38.5%、Dは68%
- ただし、イタリア62%、フランスは60%で北欧3国以上

# 現実の政策策定

---

## ●基本目標(政策の大方向)

- これは官僚には任せられない。
- 議員(中央・地方)・社会福祉の担当者・経済学者などの協力と討論による明確な基本イメージ作成

## ●国民の理解が先決

- 思想家・経済学者・ジャーナリストなどの協力も

## ●数字の詰め

- これは官僚でよい。マニフェストに細かい数字は必要ない。

# 地方議会議員の役割

---

## ●大阪市立大学において考えたこと

- 理事者側、経済界→市会議員の質が悪い。
- 選んだ市民の問題

## ●地方議会議員の役割

- 地域の世話人。市政・県府政の協力者
- 市民の教育者(その前には自分の教育も)
- 地域と国を支える。→国民的合意の形成者
- 経済政策・社会福祉制度にも、議員として関心を。

# 「コンクリートから人へ」を実現する。

- 国土強靱化でよいか。
  - アベノミクスの第2の矢 → 建設族の跋扈
- 都市型洪水を一例に
  - 都市流出率:1977年50%、1988年75%)
  - コンクリート漬け都市建設の誤り
  - 保水力の増強(時間を掛けて流す、利用する)
  - 住民の協力が不可欠(行政、議員の役割)
- 浸透枡・排水溝
  - 定期的清掃(市でなく共助で、健康な高齢者の役割?)

# 人生をともに支える社会

## ● 共生社会

- 人生をともに支える。
- 共生社会の上に人に優しい・強い経済が生まれる。
- 「コスト切り下げで競争力」は、一企業家の視点

## ● 自民党と民主党、第3極

- 自民党ビジョンでは実現不可能
- 第3極はポピュリズム？ みんなの党・渡辺さん

## ● 議員は、共生社会のリーダーでありたい。

- 健康な高齢者に活動の場を
- 党の政策立案に地方議会議員も参加を